

中町の台車 大修復

美川・おかえり祭り

白山市美川中町の町内会は、県無形民俗文化財「おかえり祭り」で運行させている同町所有の台車の大規模な修復に着手する。漆、金箔で彩られた屋根や車輪、人形の修繕に加え、土台となる長さ約7メートルの曳手2本を新調し、「現役世代が経験のない規模」(町内会役員)となる。来年4月の完成を見込んでおり、伝統工芸の粋を集めた台車の輝きを取り戻す。

屋根や車輪 曳手新調 月内着手、来春完成

美川中町は19、20日の祭り終了後、台車の修繕委員会を開き、対応を協議する。修復した台車は来年のおかえり祭り前に、住民に披露する考えだ。

美川中町の台車は藩政期の文化・文政年間(1804～29年)に造られたと伝わる。江戸期に多くの豪商が居住し、豊富な財力を背景に13台の台車の中でも装飾が豪華とされる。同町は神輿や台車が藤塚神社に帰る道筋「おかえり筋」を担った2009年、車輪3基を新調するなど修繕を重ねてきた。ただ、曳手や人形などの傷みは激しく、10年ぶりにおかえり筋を務める19年に向け、抜本的な修復を求める声が町内で高まっていた。

美川中町の町内会長の平岡誠さん(60)によると、計画では「わらび手」と呼ばれるケヤキ製の曳手2本を本体から取り外す。巡行の際の接触で損傷が目立っており、2本とも新調する。美的な修復を求める声が町内で高まっていた。京都の専門業者に委ね、羊毛や熊毛を使った衣装、人形本体の輝きをよみがえらせる。1879(明治12)年に新調されて以来、修繕されたとの記録はない。京都の専門業者に委ね、羊毛や熊毛を使った衣装、人形本体の輝きをよみがえらせる。町内会は約130軒の各世帯から毎月集める町内会費を積み立て、約1200万円に上る全体の修復費に充てる。市が3分の1程度を助成する。

お旅の曳山も美しく

お旅まつりの千秋楽から一夜明けた14日、小松市中心部の各町は朝から曳山の解体を行った。来年のまつりで曳山子供歌舞伎の上演当番となる大文字町は曳山を修理する予定で、部品を業者へ搬送した。

来年の上演当番・大文字町

解体、修理へ搬送



曳山の解体作業を進める町民
＝小松市大文字町

から組み立て式に改める。階段の大きがかりな修理は1993以来となる。この日は町民約60人が大文字

下校児童

白山署など新

新潟市の線路で女兒の遺体が見つかった殺人、死体

男女の優勝チーム



A(白山市)、女子で加賀温泉クラブ抹茶(加賀市)がそれぞれ優勝した。

創作の情熱に触れ

現美白山展 松任小児童が鑑賞

白山市民工務つるわしで(主催)に14日、同市松任開催中の第74回現代美術展 小5、6年生が団体鑑賞に白山展「一段材匠去人具美」を訪れた。児童計約200人

178点が並んでいる。

児童は図工の授業の一環で訪れ、印象に残った作品で気付いたことや感想を用紙に書いた。6年の加野衣都君は多彩な造形の彫刻に見入り「制作するのは難しい」とつぶやき、自分でもや

備促進を求めた。

加賀市議会から林直史議長、稲垣清也副議長、中谷喜英、田中金利両市議が参加した。懇談は非公開で、関係者によると、林議長が2月の大雪で多くの交通機関がまひした中、北

国道8号は県境付近の4車線化事業の着手が必要だとした。

北陸新幹線について岸田政調会長は早期整備の重要性を認識した上で「地元の期待に応えたい」と述べ、

与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチームで財源などの議論を進める考えを示した。一行は岡田直樹参

院議員ら石川、福井の国会議員にも要望を伝えた。15日は国土交通省を回る。



ズの香りを組み合わせた
商品を眺める徳田さん
＝能美市佐野町